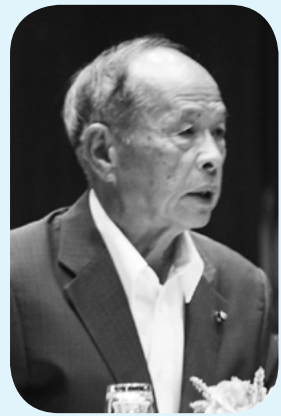


# 宇都宮 宗康 議員



## 一問一答方式

- ① 肱川の大氾濫
- ② 非常勤職員の処遇改善

### 肱川の大氾濫について

**問** 平成30年7月豪雨において、山鳥坂ダム工事事務所からのホットラインにより、鹿野川ダムがただし書き操作をする見込みであることとダム放流の1時間10分前に連絡がありながら、本市からの避難指示がダム放流の5分前であったため、被災者の多くは着の身着のままの状態に避難しなければならず、大事な思い出も含めて多くの財産を失ってしまった。市長も含めて、災害対策本部にはそのような事態になるとの認識がなかったのではないか。

**答** 今回の災害に際し、まず、ダムのただし書き操作実施の情報提供については、国土交通省山鳥坂ダム工事事務所から7月7日午前6時20分にホットライン及びファックスにて事前連絡がありました。

また、6時50分にも、ホットラインにより放流量の予測についての連絡があり、その内容は、最大毎秒6,000トンという、これまでの経験では想像をすることができない量であり、このことにより、今回の雨量等が普通ではない状態であることはわかりましたが、より確かな情報を得るため水位の変化や見込みについて、情報収集を行ったところです。

7時7分に国土交通省大洲河川国道事務所より、大洲第2水位観測所の水位が10時30分の時点で8・15メートルとなる見込みという情報提供を受け、今までに経験したことのない高い水位であり、大規模な被害が発生するおそれがあることを認識したため、7時30分に大洲市全域に対し避難指示を発令したところです。避難指示の発表が結果として、議員ご指摘のようなタイミングになっ

たことについては、重く受けとめていますが、その間は不必要に発表を遅らせたのではなく、より正確な情報に基づき次の対応を決めるための時間であったとご理解を賜りますようお願い申し上げます。

**問** 国土交通省は、山鳥坂ダムが必要であると、ダム検証の場で結論を得ているようだが、野村ダムと鹿野川ダムにおける異常とも思われる操作により、大洲地域では人や経済の疲弊が生じている。それでも山鳥坂ダムは必要だと思われるのか。

**答** 山鳥坂ダムの必要性については、ダム検証においてさまざまなた代替案と比較検討され、コスト、実現性等から現計画案が優位とされ、継続されているところです。本市としても、河道整備で確保できる流量のほかに、上流部で貯留できる山鳥坂ダム建設は肱川流域の治水安全の早期向上には不可欠であると考えています。

### 非常勤職員の処遇改善について

**問** 各自治体は、自治体職員が大幅に削減されることになって

も、自治体に対するニーズや行政の多様化によって業務量は増大しているため、非常勤職員をふやすことに対応してきた。

本市では嘱託職員が定着し、3年に1度の昇給制度が確立しているが、引き続き昇給することができるとか。また、正規職員と同じように、給料表を検討されるのか。一部の職種では主任手当などがあるが、どのような取り扱いなのか。

**答** 会計年度任用職員の給料または報酬は、職務の内容や責任等を踏まえつつ、学歴や経験年数を考慮して決定することとなるので、再度の任用の際には、その勤務経験による職務能力の向上に応じた給与の決定、いわゆる昇給を行っていきたくと考えています。

また、給料表については、正規職員とのバランス等を考慮しながら今後引き続き検討を進めていき、手当の支給についても、それぞれの手当の趣旨を踏まえながら他自治体等の状況を参考にしながら、今後適切に判断していきたいと考えています。